

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誰もが安心して学び、自分を伸ばすことができる地域の学校へ
1. 知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む
2. 自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む
3. 真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む
4. 共に学び、友と育つ力を育む

2 中期的目標

1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上 ～知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む (1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。 ア あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ちの定着・改善に取り組む。 イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。 ※年間遅刻者数を令和8年度にむけて2,500回以下を維持する。(R3：2,937回、R4：2,171回、R5：3,595回) (2) 支援教育の充実でいじめのない学校づくりを推進する。 ア 教育支援委員会、担任、保健室など生徒情報の共有と相談体制を充実させ、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。 イ 「ポジティブ行動支援」による「ほめる。認める。励ます。」を充実させ、笑顔を増やす。 ウ 教育支援カード、個別の支援計画等を活用する。個別支援については、「合理的配慮」の観点から具体的な方法を講じる。 エ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、キャリアカウンセラーの活用継続とともに、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」において学校における居場所づくりを充実させる。子ども家庭センターなどとの連携により生徒支援をさらに充実させる。 オ いじめの防止、早期発見に努めるとともに、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することにより、他人を思いやる気持ちを育成し、人権感覚を身につけさせる。 ※学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」85%以上を維持。(R3：82.8%、R4：83.9%、R5：88.7%) 2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ ～自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む (1) わかる授業をめざし、授業力の向上に取り組む。 ア 10年研チーム(10年経験者、ミドルリーダー)を核とした、日常的な自主研修から授業力向上につなげる。 イ ユニバーサルデザイン(UD)を意識した授業、ICTを活用した授業を構築し、生徒の学習意欲をUPさせる。 ウ オンライン学習、タブレットを活用した学習について、研修を充実させ向上を図る。 エ 他の府立高校、支援学校、近隣市教育委員会、近隣中学校と連携し、公開授業、教職員研修を充実させる。 オ 教員相互の授業見学を推進する。 ※ 学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」を令和8年度には75%以上をめざす。(R3：75.6%、R4：73.6%、R5：75.2%) (2) キャリア教育を充実させ進路保障していく。 ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導体制の定着を図る。1・2年からガイダンスを行い、職業観を育成し、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。また、学力向上を推進するための組織的な取組みを行う。 イ 漢字検定や毎日パソコンコンクールについて引き続き全員受験を行い、さらなる上位級への挑戦を図る。 ウ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。 ※ 卒業時の進路決定者を令和8年度に97%にする。(R3：100%、R4：100%、R5：100%) ※ 生徒・保護者の進路指導満足度を令和8年度にともに80%以上にする。 (生徒・保護者 R3：88.5%・79.1%、R4：84.5%・74.5%、R5：84.4%・68.1%) ※ 就職内定率は100%の達成・継続をめざす。 3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実 ～真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む ア 部活動・行事の一層の充実を図るとともに、環境整備に努める。また、部活動加入率を令和8年度には45%以上をめざす。(R3：45.0%、R4：39.5%、R5：44.7%) イ 楽しい行事の実施を実現し、生徒が運営面においても経験を積むことができるよう指導する。 ウ 部活動や生徒会活動などで中学校や地域との交流、地域貢献することを推進する。 エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。(再掲) オ 学校説明会・体験入学、中学校・塾などへの訪問活動で本校の良さを発信する。学校ホームページ(ブログなど)、広報グッズ(マスコットなど)、学習支援連絡網などを充実させ、積極的に情報を発信する。PTAと連携し、保護者への情報発信を充実させる。 ※ 学校行事への肯定値を前年度以上に向上させる。(R2：68.9%、R4：70.0%、R5：73.4%) 4. 共生推進教室の一層の充実とインクルーシブな学校づくりをすすめる。 ア 信太高校全体の活動を通じて、すべての生徒に「ともに学び、友と育つ」教育をすすめる。 イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が協力し、関係機関との連携で共生生徒の就労実現と自立に向けた取組みをすすめる。 5. 「チーム信太」で力を合わせて生徒を育てる体制づくり ア 教職員相互の信頼・意思疎通、学校運営への参画意識を醸成し、「やってみよう」の精神でアイデア発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。「10年研チーム」やミドルリーダーには経験年数の少ない教員のメンターとして活躍させる。 イ 働き方改革に関する取り組み 部活動改革、全校一斉定時退庁日遵守、業務のデジタル化による業務効率化、超過勤務時間減、休暇取得に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
◇学校運営・環境 「学校設備について整備できている」の項目で、生徒は2年連続で増加しており、今年度は85%を超えている。興味に応じた教育課程（教員）については、昨年度と比べて7.8%減少しており、過去10年間で2番めに低い数値である。教員の値については、ほとんどの項目で減少している。しかし、数値として決して低いわけではないため、現状よりもさらに高いレベルを求めている教員がいるのではないかと考えることもできる。これからも教育活動について教職員で話し合いをすることが大切だと思う。 ◇教育相談・人権 教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い」（生徒）は2年連続で増加しており、過去最高の値であった。SC、SSWの来校や居場所カフェの実施がより充実し、生徒のニーズを満たしていることがわかる。「障がいのある生徒と「ともに学ぶ」教育が進んでいると思う」の項目では、生徒・保護者ともに増加しており、過去10年間で最高を更新している。授業だけでなく、学校行事や部活動など多くの場面で、ともに学ぶ機会が増えていることが理由の1つだと考えられる。 ◇学校生活 生徒の「学校生活は充実している」は2年連続で増加、「信太高校に入ってよかった」の項目は4年ぶりに増加している。授業をはじめとして、ホームルーム活動、部活動など様々な角度から生徒が充実した学校生活をおくっている様子を伺うことができる。「信太高校に入ってよかった」の項目は学年が上がるにつれて上昇している。今後も変わらず、生徒が楽しく安心して学べる居場所をつくることと充実した学校生活を送ることができるようにしていくことが重要である。「信太高校に入ってよかったと思う」（生徒）「信太高校に入学させてよかったと思う」（保護者）では、生徒と保護者との差が14.3%ある。昨年度より約5%縮まっているが、それでも生徒と保護者の意識の違いが感じられる。生徒・保護者それぞれが求めている学校像のリサーチが必要だと考えられる。 ◇学習・体験 全生徒の回答として、半分以上の項目で昨年度よりも肯定的な意見が増加しており、5つの項目で過去最高の数値となった。「先生はテスト以外の様々な評価を取り入れて成績を出している」の項目では、90.1%で過去最高となっている。「校内外での体験的な学習が進んでいる」の項目については、昨年度よりは増えているものの、R2年度に低い値になって以降、R1年度以前の水準には戻っていない。 ◇進路指導・生活指導 進路分野においては学校全体で取り組んでいることもあり、生徒・教員とも数値としては80%を超える数値となっている。教員の「進路実現ができるよう、きめ細やかな指導をおこなっている」の項目では94.4%と非常に高い数値となっているのに対して、保護者の「進学や就職など、進路実現ができるよう、きめ細かい指導を行っていると思う」（保護者）の項目では78.1%となっており、差が16.3%ある。しかし、保護者は昨年同じ項目で、68.1%という、過去最低の値だったので、今年度は10%増加し、差を縮めることができた。 「学校の生徒指導の方針に共感できる」の保護者の回答において、R2に最高値の75.8%になって以降、減少し続けており、R6では59.1%となり、去年に引き続き、低い数値となった。納得していないがルールは守っているという生徒が一定数いる。ルールを守っているという項目で肯定的な意見が非常に高いため、その数値の維持をめざす。「社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い」については生徒・保護者・教員すべてにおいて70%以上の肯定的評価を得ている。生徒指導は社会に出た時の基礎となる部分であるという考えを教員・生徒・保護者がしっかりと共有し、80%以上の高水準をめざしていきたい。 ◇特別活動・その他 部活動については、保護者と教員が微減しているが、いずれも80%以上の高い数値である。生徒は88.7%と過去最高の値となっている。部活動の加入率の増加をめざし、より一層部活動の活性化を図る。国際交流やボランティア活動など、生徒が中心となって、達成感や成長を実感できる取り組みを進めていく必要がある。保護者への情報提供については、ホームページやブログ、連絡ツールなどを活用し、保護者・教員ともに連絡を取りやすい手段を考えていく必要がある。また、参加しやすい公開授業や学校行事のための、取り組みの工夫をしていきたい。	第1回 令和6年6月21日(金) 【報告・議案】令和6年度学校経営計画及び令和5年度学校評価について （質問）生徒の満足度は上がっているが、保護者の満足度が減っているとの説明があったが、保護者の満足度について減っていることを生徒が自己決定出来ていると判断して良いのではないか？ （回答）確かにそのような側面もあるかもしれない。ご意見として承りたい。 （質問）自分を大切にするといった視点は入れなくて良いのか？ （回答）今年度は、誰もが理解できる授業実践と、いじめのない教育環境を構築することを目標に、校内研修のテーマに、「ユニバーサルデザイン」に基づく教育実践や「ポジティブ行動支援」を取り上げている。そのため、全体支援委員会を立ち上げ、支援体制をより重点化することにしている。全体支援に取り組むことにより、生徒の自己肯定感を高めることに繋げたい。 （質問）生徒が教育活動をとおして外部との繋がりを如何に持つか、それが生徒の自信に繋がるのではないかと？ （回答）年に2回、通学路を中心に清掃活動を実施している。今年度も第1回を実施し、生徒会、部活動の生徒を中心に約160名参加した。文化祭が地域のイベントに参加したり、運動部が、近隣中学生と共に活動したりしている。これからもそのような活動を継続したい。 （質問）学校教育自己分析などのアンケート項目については、教員の視線だけでなく、生徒の目線に立ち生徒が関心あることも表現してはどうか？ （回答）学校教育自己分析は経年変化の分析を意識し、項目については過去の指標があるため、大きく変動は出来ないが、何らかの形態で委員の意見が取り入れられるよう意識したい。 第2回 令和6年11月15日(金) 【報告・議案】令和6年度学校経営計画及び令和5年度学校評価について ・令和6年度学校経営計画について、現在、教職員の研修テーマに「ポジティブ行動支援」を掲げ、職員研修を重ねていることの経過を説明。 ・1学期末に実施した授業アンケートの結果について、経年変化とともに分析報告。特に授業計画や教材活用の数値が上昇しているが、他の項目でも前回数値より上昇が見られることから、昨年度に導入した電子黒板型プロジェクトの導入により、教員による授業展開の工夫がなされ、1人1台端末の活用も含めて、今回の数値上昇に繋がったと思われることを説明。 ・40期生の進路状況では、総合型選抜で4年制大学を受検する生徒が増えていることを説明。また、就職では、前年度より求人数が増えていることを説明。 ・学校教育自己診断アンケートの項目について説明。生徒用アンケート項目で、「本校は国際交流やボランティア活動が盛んである」について、コロナ禍以降は国際交流事業が滞っているため、「国際交流」を「地域貢献」に変更したことを説明。その他は経年変化を分析するため、概ね前年度の文言を踏襲していることを説明。 【意見交換】 →（意見）昨年度、授業見学した際に、生徒たちは冷めた印象を受けたが、今日は皆で話し合いながら問題に取り組んでいる光景があり、とても良かった。社会に飛び立つ前の明るく元気な雰囲気を強く感じた。 一（意見）中学校に広報を兼ねて近況報告として1年生が行った様だが、2・3年生も近況報告しても良いのではと思った。 一（意見）授業では生徒たちが明るく元気だった。数学では、1人で付んでいる様な生徒がいなかった。みんなで意見を言い合っていた。学校での研修主題でもある、「ポジティブ行動支援」が影響を与えてるのではないかと。学習者がみんなで認め合って学習に取り組んでいることを感じた。 一（意見）共生推進教室以外でも学習支援が必要な生徒はいるので個別のサポートを役立てて欲しい。 一（意見）「なごみカフェ」では、SC、SSWなど教室以外の専門的な領域からのアプローチも有意義だと思われるので、ぜひ取り組んで欲しい。 一（意見）授業を見学して、生徒との信頼関係が構築されていると感じた。生徒会や文化祭の目標を生徒たちが主体的に立てている。生徒たちが自発的に学校行事について考える機会を作っていると感じた。 一（意見）子どもに寄り添う感じがした。生徒たちに、ポジティブ行動支援が浸透しているのでは、と思った。 第3回 令和7年度1月31日(金) 【報告・議案】令和6年度学校教育自己診断報告 ・令和6年度学校教育自己診断について分析結果を説明 （質問）昨年度と比較して、生徒の回答数が減少している。その理由はどのようなものか？ （回答）生徒には授業日のLHRで回答してもらった。その日の欠席者数に左右された。欠席者も回答できるようにしているが追跡はできていない。 （質問）質問項目の『「いじめ」や暴力のない学校づくりに努力している』について、生徒の回答と教員の回答に5%の差が生じているのはどうしてか？ （回答）教員側には「いじめ」を無くしたいという強い思いがあるが、生徒にはその思いが教員ほどには伝わっていない。そのため回答結果に差が生じたと考えている。 ・授業アンケート経年変化を報告 （意見）各学年での授業アンケートの経年変化や特徴を分析する必要があるのではないかと？

府立信太高等学校

	・40 期生進路状況を報告 ・令和 6 年度学校経営計画及び学校評価を説明 (質問) コース制の名称について変更があったようだがその理由は記載されているのか？ (回答) 今年度、国際系と人文を統合した。そのためカリキュラムを調整したが、本来の主旨に沿ったものであり影響がないため、改めて理由等は記載していない。 【意見交換】 (意見) 学校教育自己診断では、アンケート自身が教員側の視点で書かれている。生徒側の視点ではないため、精査し分析して結果を共有することが必要だと思う。最終的に生徒たちが自己実現できる学校だという意識を持てるようにして欲しい。 (質問) PTA 広報活動について、生徒の個人情報（顔写真）など何か工夫はあるか？ (回答) 生徒の個人情報（顔写真）については、事前に了承を得ている。確かに個人情報については繊細な問題で、気を付けて対応したいと思う。 (意見) SNS 等で写真を掲載する危険性について生徒に認識させて欲しい。警察など講演を聞く機会を作って欲しい。専門家が来て危険性の問題など理解する機会が必要。 (意見) 生徒の居場所を作ってほしい。その意味で「居場所カフェ」は良い事業だと思う。生徒が守られている意識を作ってほしい。また、生徒の成功体験を得られるような学校行事の工夫も必要に思う。 (意見) 生徒に「共感」などカウンセリングマインドが必要だという認識を持たせる必要がある。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上	(1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。 ア あいさつ運動・服装頭髪指導。	(1) ア 社会人基礎力の育成のため、生徒指導の目的を理解させたうえで、あらゆる場面で「あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ち」などの基本的生活習慣の定着・改善を推進する。 全職員による早朝の服装頭髪指導（月 2 回）を継続する。	(1) ア・全職員による毎朝の挨拶運動と服装頭髪指導（月 2 回）において、生徒への声掛けを充実する。 ・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」60%以上を維持。[61. 5%]	(1) ア・朝の立ち番で身だしなみや時間遵守の姿勢が浸透し維持できている（○） ・学校教育自己診断 62. 7%（○）
	イ 学校と家庭が連携した、遅刻指導。	イ 遅刻カード、早朝登校、保護者との連携などを取り入れた遅刻指導を推進する。他学年の遅刻数も含めた遅刻数の速報を適宜公開し、生徒と教員の意識づけと士気を高める。	イ・年間延べ遅刻件数 2, 500 回以下を維持する。[3, 595 回]	イ・年間延べ遅刻件数 3, 146 回（○） 目標値に達していないが昨年度よりかなり減少
	(2) いじめのない学校づくり ア 相談体制の充実。	(2) ア 教育支援委員会、担任会、保健室等の間で生徒情報の把握を速やかに行い、支援内容などを、職員会議等において全教員で共有化する。	(2) ア・学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」85%以上維持。[88. 7%]	(2) ア・生徒一人ひとりに応じた支援をきめ細かくできた。学校教育自己診断 85. 7%（○）
	イ 「ポジティブ行動支援」による指導。	イ 「ポジティブ行動支援」の取り組みを増やす。全体支援推進チームをつくり、研究、普及に取り組む。		イ・「ポジティブ行動支援」全体支援推進チームを立ち上げ、大学の准教授による職員研修、全体支援推進チームの会議への指導助言 3 回＋高等学校支援教育力充実事業「専門家チーム」指導助言を活用して 1 回追加。2 学期には教職員向けのキャンペーンを実施、文化祭では生徒会の生徒を中心としたキャンペーンの実施、3 学期には生徒を中心とした学年ごとのキャンペーンを実施。「ポジティブ行動支援」の取り組みを増やし生徒の自己肯定感を高めることにつながった。（◎）
	ウ スクールカウンセラーなど、外部人材・外部機関の活用。 エ いじめの防止。	ウ SC、SSW、CC、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」など外部人材の協力を得て、専門的知識に基づいた生徒支援を充実させる。子ども家庭センター等の外部機関との連携で生徒支援を組織的に行う。 エ 人権教育推進委員会、いじめ防止・対策委員会を中心に、「いじめアンケート」を活用し、いじめ防止、早期発見、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することを継続する。	ウ・外部機関との連携を学期に 1 回以上実施。 エ・学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」前年度水準を維持。[83. 9%] ・学校教育自己診断の「いじめ等を見逃さず対応」前年度水準を維持。[83. 4%]	ウ・外部機関による講演会を学期に 1 回実施。地域の子ども家庭センターと連携し一時保護や見守りを通し生徒の支援 エ・学校教育自己診断 83. 9%（○） ・学校教育自己診断 80. 5%（○）

府立信太高等学校

2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ	（１）授業力向上。 ア 10 年研チームを中心とした授業力向上。	（１） ア 10 年研チームが 10 年経験者研修と連動させ、研究授業や課題解決型自主研修などを主催し授業力向上を図る。	（１） ア・学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」75%以上を維持。[75.2%] ・学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」80%以上を維持。[88.7%] ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」3.2 以上。[第 1 回 3.30 第 2 回 3.30] ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」3.2 以上。[第 1 回 3.34 第 2 回 3.34] イ・授業力向上のための他校交流を 1 回以上実施。	（１） ア・学校教育自己診断 76.5%（○） ・学校教育自己診断 90.1%（◎） ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」第 1 回 3.32 第 2 回 3.32（○） ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」第 1 回 3.37 第 2 回 3.36（○） イ・すながわ高等支援との交流を実施（○） ウ・学校教育自己診断 87.4%（◎）
	イ ユニバーサルデザイン、ICT を活用した授業構築。 ウ オンライン学習・タブレット学習の研修	イ ユニバーサルデザイン (UD)、ICT を意識した授業力向上のための交流を他校と行う。UD 授業推進リーダーの育成。 ウ GIGA スクール委員会を中心に、タブレット活用授業について研究、普及に取り組む。	ウ・学校教育自己診断「生徒がクロームブックを効果的に活用できるように学校は取り組んでいる」80%以上を維持[81.2%] エ・近隣中学校との情報交換、授業交流を 1 回以上実施。	エ・泉大津市立東陽中学校へ出前授業を 1 回実施し、出身中学へ生徒の状況を紹介するビデオメッセージを送信（○） オ・公開授業週間 6 月、11 月実施（○）
	エ 公開授業、教職員研修を充実させる。 オ 教員相互の授業見学を推進する。	エ 泉大津市教委との連携事業による公開授業・研究授業の実施および参加。 オ 公開授業期間に相互見学を推奨。	オ・公開授業週間を年 2 回実施	
	（２）キャリア教育を充実させ進路保障をしていく。 ア 3 年間を見通したキャリア教育。	（２） ア・進路指導は、2 年 3 学期を 3 年 0 学期と位置づけ 3 年 1 学期のスタートをより良いものにする。 ・「総合的な探究の時間」において、専門学校等の外部人材を活用し、職業観を育成する。 ・「学力生活実態調査」「基礎学力調査」の継続的な活用を行う。 ・進路指導部と学年の連携を密にし、卒業時の進路決定に向けて指導・支援を行う。	（２） ア・卒業時の進路決定率 95%以上。[100%] ・生徒・保護者の進路指導満足度ともに 80%以上維持。[生徒 84.4 %、保護者 68.1%] ・就職内定率、100%の継続 ・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」55%以上。[53.0%] イ・漢字検定 3 級以上の合格率前年度以上。[17.7%] ウ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「興味・関心」3.70 以上。[第 1 回 3.8 第 2 回 3.8] ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「知識・技能」3.70 以上。[第 1 回 3.8 第 2 回 3.8]	（２） ア・卒業時の進路決定率 100%（○） ・生徒・保護者の進路指導満足度 生徒 87.1%、保護者 78.1%（◎） 保護者の数値は目標に達していないが昨年度よりかなり上昇している ・就職内定率 100%（○） ・学校教育自己診断 61.4%（◎） イ・漢字検定 3 級以上の合格率 12.6%（△） ウ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「興味・関心」第 1 回 3.8 第 2 回 3.8（○） ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「知識・技能」第 1 回 3.8 第 2 回 3.9（○）
	イ 全生徒の資格取得の推進。 ウ スポーツ科学専門コースの充実。	イ 漢字検定、毎日パソコンコンクールの全員受検を継続するとともに、英検の受検も推進する。 ウ 専門コースとして学んだ知識、技術、戦術や練習に取り組む姿勢などを日常生活に反映させ進路実現の糧とする。		

府立信太高等学校

3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実	ア 部活動・行事の一層の充実、環境整備。	ア 誰もが部活動に入れるよう、部活動環境のさらなる整備と行事の充実を図る。 ・文化的活動推進のための、大学や専門学校による出前講座の実施。	ア・1年部活動加入率 45%以上。 [1年 53%、全学年 44.7%] ・学校教育自己診断での「学校生活充実度」70%以上維持。[73.0%] ・出前講座を1回以上実施。	ア・1年部活動加入率 1年 51.3%、全学年 45.2% (○) ・学校教育自己診断 75.4% (◎) ・近畿職業能力開発大学校1回、専門学校2回 出前授業実施。その他授業（家庭・情報・スポーツ）で9回実施 (◎) イ・学校教育自己診断 73.0% (○) 前年度以上は達成できていないが、各学年で生徒主体の学年行事を実施することができた。 ウ・地域行事参加年間5回 (○) ・地域清掃活動 17回 近隣公園清掃含む (○) ・各部中学生招待合同練習実施 133回 (◎) エ・学校教育自己診断 88.7% (◎)
	イ 行事を楽しむ、運営経験を積むことができるよう指導する。 ウ 部活動などで中学校や地域との交流を推進する。	イ 楽しむ行事の実施（合唱コンクール、クラスマッチ）。学年規模の行事運営経験を積ませ、学校規模の大きな行事運営能力を育成する。 ウ・近隣の福祉施設、地元商店街、近隣中学校、支援学校など各機関・団体との交流・連携を推進する。 ・地域清掃活動を再開。	イ・学校教育自己診断での「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」前年度以上に。[73.4%] ウ・地域行事参加年間5回以上。[5回] ・地域清掃活動年間5回以上維持。[25回] ・中学生対象部活動行事年間40回以上。[97回] エ・学校教育自己診断「部活度が盛んで熱心に取り組まれている」前年比以上[85.7%] オ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度 100%を維持。[97.1%]	イ・学校教育自己診断 73.0% (○) 前年度以上は達成できていないが、各学年で生徒主体の学年行事を実施することができた。 ウ・地域行事参加年間5回 (○) ・地域清掃活動 17回 近隣公園清掃含む (○) ・各部中学生招待合同練習実施 133回 (◎) エ・学校教育自己診断 88.7% (◎)
	エ スポーツ科学専門コースの充実。（再掲）	エ 専門コースとして学んだ取り組む姿勢を地域連携事業や学校行事などで実践する。	エ・学校教育自己診断「部活度が盛んで熱心に取り組まれている」前年比以上[85.7%] オ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度 100%を維持。[97.1%]	オ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度 96.4% (○) 昨年度より数値は低下しているが、生徒による中学校訪問を新たに実施。塾訪問を新たに実施。 ・ブログ更新 90本 (◎)
	オ 積極的な情報発信と PTA との連携。	オ・中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ・ブログの充実、学校案内リーフレットの改訂、広報グッズの活用により、積極的に情報を発信する。 ・PTA と協力し保護者へ信太の取組み情報発信	・ブログ随時更新を心掛ける [年間 69本]	
4. 共生推進教室の充実	ア すべての生徒と「ともに学び、友と育つ」教育の推進。	ア 「障がい理解 HR」において、障がいのある生徒とない生徒が、あらゆる行事にともに参加することの大切さを教え、それに必要な配慮を行う。	ア・学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ』教育」生徒、保護者ともに前年度以上。[生徒 83.0%、保護者 68.9%]	ア・学校教育自己診断 生徒 85.2%、保護者 79% (◎)
	イ 共生生徒の自立に向けた取り組みを支援する。	イ・共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進める。 ・SST を取り入れた自立活動の授業を行う。 ・学校説明会等において、共生生徒が中心となり、「ともに学ぶ教育」の説明や運営を行う。 ・自己肯定感育成のための活動を計画する。	イ・共生生徒の進路実現 100%をめざす[66.7%] ・信太ファーム 農作物を栽培し、作業を通して自己肯定感や達成感を持たせ、自立を促す。 ・生徒による情報発信、学校説明会等で説明者として舞台に立たせる。	イ・進路実現 100% (○) ・信太ファーム 作業を通して自己肯定感や達成感を味わい、協働することを学んだ (◎) ・共生生徒が学校説明会で活躍。(○)
5. 「チーム信太」体制づくり	ア 教職員のアイデアの発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。	ア・職員会議、教職員研修を通して、教職員の学校運営参画意識を高める。 ・カリキュラムマネジメント委員会を中心に、学校目標を実現するための教育課程を編成する。 ・経営推進費への応募、校長マネジメント経費活用など、学校運営アイデアを募集する。	ア・学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」75%以上。[90.8%]	ア・学校教育自己診断の教員 83% (◎) 昨年度の数値よりは低下しているが推移をみると R3 61.7% R4 66% R5 90.8%となっており、学校運営への参画意識を向上させてできている。
	イ 働き方改革を推進。	イ・業務の効率化について研究する。 ・月あたりの超過勤務時間 80 時間以上の人数を減らす。 ・休暇休業制度の普及と振替休日取得の推奨。 ・部活動改革。生徒の多様な「学びの場」を確保しながら教員の業務負担の軽減を模索する。 ・全校一斉定時退庁日遵守、「大阪府における部下活動等の在り方に関する指針」遵守、業務の	イ・超過勤務時間 80 時間以上のべ人数の比率を昨年度以下。[4.7%] ・男性育児休暇取得促進、遅出・早出勤務や年休が取りやすい職場の雰囲気づくり。 ・合同部活動「大阪モデル」の活用。 ・時間外勤務の全教員の平均昨年度以下。[27h]	イ・超過勤務時間 80 時間以上のべ人数の比率 1.8% (◎) ・休暇等を取得しやすい職場の雰囲気づくりに努めた結果、育児等に関する休暇等の取得者は計 10 名となった。(○) ・大阪府部活動の在り方に関する研修会にて活用事例発表 (◎) ・時間外勤務の全教員の平均 23h(◎)

		デジタル化による業務効率化、超過勤務時間減、休暇取得に取り組む。		
--	--	----------------------------------	--	--